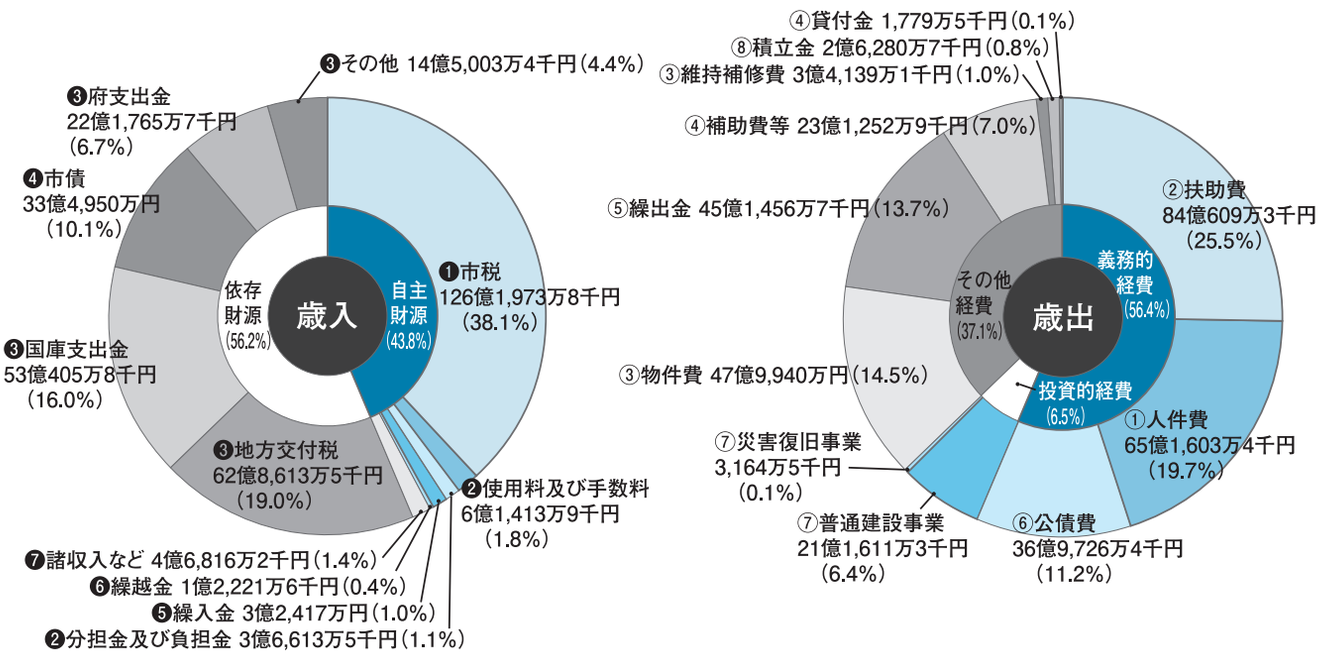
特集◉平成24年度決算報告

河内長野市の財政状況をお知らせします

平成24年度の決算がまとまり、一般会計の歳入総額は331億2194万4千円、歳出総額は330億1563万8千円となりました（下記円グラフ参照）。翌年度へ繰り越す財源を差引いた実質的な収支は、1196万9千円で、黒字決算となりました。

ここでは、市民のみなさんの税金などがどのように使われたのか、サラリーマン家庭の家計に例えて説明しながら、市の財政状況についてお知らせします。

問い合わせ　財政課



※上記グラフの番号は下表の家計簿の番号と対比しており、同じ比率で家計簿の数値を算出しています。

かわちながの家の 家計簿

月収30万円としたら

（単位：円）

収入		支出	
❶給与収入	114,300	①食費	59,000
❷パート収入	8,900	②医療費・教育費	76,100
❸親からの援助	138,200	③光熱水費・日用品・修理	46,600
❹金融機関からの借入	30,300	④自治会・サークルの会費	21,100
❺貯金の取り崩し	2,900	⑤子どもへの仕送り	40,900
❻前月からの繰越金	1,100	⑥ローンの返済	33,500
❼雑収入	4,300	⑦家の増改築	19,400
—	—	⑧貯金	2,400
A 300,000		B 299,000	

市税❶
市民税や固定資産税など

使用料、手数料など❷
施設使用料や住民票交付手数料など

国庫・府支出金、地方交付税など❸
国や府から給付されるお金など

市債❹
金融機関などから借り入れたお金

繰入金❺
貯金を取り崩したお金

繰越金❻
前年度から繰り越されたお金

諸収入など❼
財産の売り払いや寄付金など

①人件費
職員の給料や議員報酬

②扶助費
児童手当など福祉に使うお金

③物件費など
物品・原材料購入費や修理代など

④補助費など
各種団体に交付する補助金や貸付金

⑤繰出金
特別会計に対して支払うお金

⑥公債費
市債の元金や利子の支払金など

⑦普通建設事業費など
道路や学校などの建設や改修など

⑧積立金
貯金に積み立てるお金

余ったお金 A − B = 1,000

※貯金残高、ローン残高については、年収360万円とした場合

貯金残高 1,102,800

ローン残高 7,142,500

■市債・基金の状況

（単位：千円）

種　類	金　額	主な使い道
市　債	**65,714,493**	
臨時財政対策債等	17,163,127	財源不足への対応など
通常の建設地方債	16,174,458	教育・福祉施設等整備事業債など
下水道事業債	27,668,574	下水道事業
水道事業債	4,708,334	水道事業
基　金	**10,146,168**	
財政調整基金	2,590,053	財源不足への対応
減債基金	1,007,074	借金の返済
普通建設事業基金	1,739,069	一般建設事業
その他特定目的基金	4,636,441	消防防災拠点施設建設基金など
水道事業基金	173,531	用地取得・施設整備など

※市民1人当たりの市債の額は582,142円、基金の額は89,881円です。

■特別会計・水道事業会計の決算

（単位：千円）

会計名	歳　入	歳　出
特別会計	**27,290,519**	**26,568,691**
国民健康保険事業	13,618,285	12,940,497
土地取得	200,875	200,875
部落有財産	5,301	5,301
下水道事業	3,690,922	3,689,397
介護保険	8,245,555	8,245,082
後期高齢者医療	1,529,581	1,487,539
水道事業会計	**2,457,653**	**3,228,810**
収益的収支	2,276,212	2,190,155
資本的収支	181,441	1,038,655

まちの財政状況
経常収支比率は99・6％

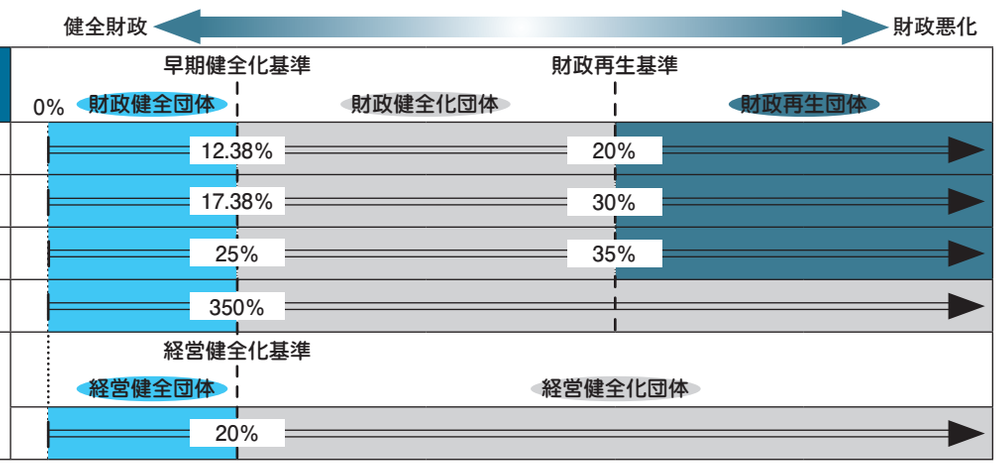
平成24年度一般会計の財政状況は、家計に例えると、食費や医療費、光熱水費、ローン返済金など必要なお金だけで支出の半分以上を占めています。給与収入や親からの援助金など、決まって経常的に入るお金に対して、これらの支出がどれくらいの割合かを示す経常収支比率は、前年度より1・9％悪化し、99・6％となりました。これは、日常の必要経費だけで給料の大部分を使い果たし、自由に使えるお金がほとんど残っていない状態です。経常収支比率の悪化は、主に市税収入の減少によるもので、人口減少などにより今後も引き続き税収は減少する見込みです。また、平成24年度の黒字決算は、市の貯金である財政調整基金を1億5千万円取り崩してようやく達成できたもので、非常に厳しい財政状況となっています。市では、このような財政状況を改善するため策定した「財政体質改善プログラム」に取り組み、わがまちの魅力アップに向けて、安定した財政基盤の確立を目指していきます。

なお、一般会計とは別に、特定事業を区別している特別会計と公営企業として設けている水道事業会計の決算および平成24年度末の市債・基金の状況は上表のとおりです。また、市の財産（土地・建物）は、土地が292万5230平方㍍、建物が26万3894平方㍍となっています。

一方、財政が健全に運営されているかの指標を表す財政健全化判断比率（下表）では、いずれの指標も早期健全化基準を下回り、健全な運営状態であると言えます。

■財政健全化判断比率

（単位：％）



区　分	河内長野市
①実質赤字比率	―（赤字なし）
②連結実質赤字比率	―（赤字なし）
③実質公債費比率	9.7
④将来負担比率	―（負担比率なし）
⑤資金不足比率（水道・下水道）	―（資金不足なし）

◉用語解説

①**実質赤字比率**：一般会計などの実質的な赤字額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すもの
②**連結実質赤字比率**：全会計の実質的な赤字額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すもの
③**実質公債費比率**：一般会計などの実質的な借入金の返済額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すもの
④**将来負担比率**：一般会計などが抱える実質的な負債の残高が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すもの
⑤**資金不足比率**：各公営企業の資金不足額が、事業の規模に対してどれくらいの割合になるかを示すもの